

子宮頸部円錐切除術後妊娠における早産予防を目的とした経腹的子宮頸管縫縮術の有効性に関する後方視的検討

1. 研究の対象

2017年1月1日～2020年3月31日の間に山梨県立中央病院産科にて分娩された妊婦

2. 研究目的・方法

研究実施期間：研究機関の長の許可日～2021年3月31日

妊孕性保存を希望する女性の子宮頸癌に対して行われる子宮頸部円錐切除術は妊娠時の早産のリスクを上昇させる。これは外科的切除による子宮頸管が物理的に短縮することから妊娠経過に伴い子宮口が開大しやすいこと、腔から子宮内への上行性感染が生じやすいことに起因すると考えられている。早産を予防するために子宮頸管縫縮術が行われることがあるが、手術適応や方法については未だに定まった見解がない。経腔的な手術が困難な症例では経腹的縫縮術が行われ、その有効性が報告されているが、適応症例や手術方法については定まっていない。本研究は研究対象者の過去のカルテ情報を用いて当院で管理した子宮頸部円錐切除後の妊娠症例を対象として経腹的子宮頸管縫縮術の早産予防における有効性を後方視的に評価し、その手術適応と当院で行う手術方法の有効性を明らかとするために行う。

3. 研究に用いる情報の種類

- ① 患者基本情報；年齢、性別、診断名、妊娠方法、分娩回数、早産既往、子宮頸管長
妊娠高血圧症候群、常位胎盤早期剥離の有無、体格、家族歴
- ② 血液検査・病理組織検査データ
- ③ 手術時情報；手術時期、手術時間、術後入院期間、子宮収縮抑制剤の使用期間
- ④ 分娩時情報；出生体重、児の性別、臍帯血 pH、分娩時出血量、絨毛羊膜炎の有無

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。申し出をいただいた時点で、既に学会や論文として発表されている場合は取り消しができないこともあります。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

山梨県立中央病院 研究責任者：産科 須波 玲

〒400-8506 山梨県甲府市富士見一丁目1番1号 TEL：055-253-7111（代表）

-----以上